

カネボウ化粧品

カウンセリングコンテスト 首都圏地区大会を開催

カネボウ化粧品は2月1日、「第3回 KanabootoタルビューティカウンセリングAWARDカウンセリングコンテスト(首都圏地区大会)(主催)カネボウビューティカウンセリング」を開催し、東京・神奈川・千葉・山梨の予選大会から選出された24名のビューティカウンセラ(以下、BC)が、10分間にわたる店頭接客のロールプレイングを実施し、接客力とおもてなしの心を競った。



開催にあたり、岡崎佳澄カネボウビューティカウンセリング代表取締役社長執行役員から以下のようなメッセージが寄せられた。

「1月1日よりスタートしたカネボウビューティカウンセリング(KBC)の使命は、お客様本位のカウンセリング活動で一人でも多くの方に力を

上げたという想いを持っている。5月22日(全国大会が開かれる)国際フォーラムでお会いできるのを楽しみにしている」

審査員は、BCの身だしなみ、洞察力、会話力、提案力、おもてなしの心などを幅広い基準に沿って審査し、宮澤麻衣子氏(百貨店)、能城紀子氏(量販店)、大語朝美氏(専門店)、和田智子氏(量販店)が全国大会への切符を手にした。

には車いすテニス選手の上地結衣氏、「芸術賞」には映画監督兼脚本家の狹上直子氏が輝いた。

2017年度の「エイボン女性年度大賞」には、1970年代から日本における現代アートシーンの創出や日本のアーティストを世界にアピールすることに奔走し、日本のクリエティブ・シーンの黎明期を作り上げた十和田市現代美術館館長兼クリエティブ・ディレクターの小泉一子氏が選ばれる現代アートシーンの創出や日本のアーティ

NHDK

2018春・夏ニューヘア モードショーを開催



横田理事長

「エイボン女性年度賞2017」表彰式を開催

エイボン・プロダクツは1月29日、社会的に有意義な活動を続け、その年に話題になった女性たちを表彰する「エイボン女性年度賞2017」の授賞式を開催した。

挨拶に立つた中陽次社長は、「日本において創立50周年を迎えることを念頭に事業を展開してきた。私たちは女性が輝く社会こそが持続的に発展すると信じており、新しい輝きを発見し伝えていくことがこの賞の意義だと思ってい



美協 日本ヘアデザイン協会(NHDK)は1月30日、都内で「2018年春・夏ニューヘアモード発表会・東京ショー」を開催した。

今回は、英語の「ad(方向・変化)」とフランス語の「dur(ハリ・強さ)」を組み合わせた造語「Addur(アドデュール)」をテーマとして、肩肘を張らずに我が道を進む力強さを持った女性像をイメージしてデザインを設定した。

横田敏一理事長は、「理事長に就任してからの1年半で、良いものは残しながらも新しいスタイルを作っていく気概で走ってきた。今回のテーマも、その時代を自信を持って活き活きと生きていく女性に提案していく作品だ」と挨拶した。

続いて行われた東京ショーでは、「創造者の原理」をテーマに、デザイナーに対して特にこだわりを持っているクリエイターがステージ上でそれぞれの技術を披露した。

同発表会は、「大阪ショー」として2月19日に大阪でも開催される。

2018年を迎えて



fruits roots 榎戸淳一のエステサロン経営 地域一番店への道 Vol.91

2018年に入り、エステティックを取り巻く環境も大きく変わってきています。様々なエステティックの市場データを見ても、横ばい、微増、微減など各社様々ですが、私の肌感覚では、従来のエステティック専門サロンが苦戦を強いられている感はありません。決してエステティック人口やエステティックに対するニーズが下がっているとは思いませんが、美容クリニック、ヘアサロン、リラクゼーションサロンのクセーションサロンのエステティックメニューへの参入、プライベートジムなどの台頭、美容家電の台頭によるセルフ美容の流行により、お客様が分散し、従来のエステティック専門サロンが苦戦していると感じています。しかし、周辺業種が盛り上がりつつある今こそ、エステティック専門サロンの強みを再認識すべきだと感じています。技術力はもちろんのこと、知識を伴ったカウンセリング力と接客力が他の周辺業種に負けない強みになると思います。ただ、ご来店したお客様に技術を提供するためのエステティシャンは今後淘汰されていくでしょう。

エステティシャンはお客様のお肌やお身体の状態を把握し、適切なケアを提供し、定期的にお客様のお肌や身体を見て、その方に合わせた技術や商品をオススメして、お客様の望む結果に導くことが本来の使命だと考えます。そこに至るには、たくさんの勉強や経験も必要ですが、それこそしずつ出て来ていきます。

したがって、これからは、お客様はいるのに、エステティシャンがいらないという現象が起こり始める中、エステティシャンをしっかりと確保できたサロンが勝ち組サロンになっていくと思います。

もちろん労働環境の改善も必要なサロンもあるかと思いますが、最初に書いたエステティシャン本来の役割を追求し、お客様に本当の意味で喜んでいただけるエステティックサロンを追求していきたいですね。

榎戸淳一プロフィール

新卒で船井総合研究所に入社し、様々な経験を積んだ後、「エステティック業界の健全化」に使命感を感じ、船井総研内で自らエステティック業界のコンサルティングを立ち上げ、業界内で多大な実績を残す。2009年8月に株式会社ES-ROOTSを立ち上げ、東京都目黒区にオーガニックコスメ&エステサロン「フルーツ」をオープンさせ、第2回エステティックグランプリでは、モデルサロン部門、フェイシャル技術部門で2冠を獲得し、現在では、エステティックグランプリの理事長を務めている。著書に「サロンはスタッフ育成で99%決まる」がある。

連絡先: j-enokido@es-roots.co.jp



「Addur」をテーマにしたヘアスタイル